

本専攻には大学教員志望の学生がクラス作りや教育について学ぶことができる夏季の TATF 研修プログラム、筑波大学に納める分の学費のみで海外で自身の研究に即した指導が受けられる大学院の交換留学プログラムがあります。私は今回カナダのプリンスエドワード島大学にて研修プログラム、大学院の留学プログラムを修了してきました。研究テーマはプリンスエドワード島出身の作家 L・M モンゴメリによって書かれた『赤毛のアン』の日本とカナダでの受容の比較でした。それゆえに、その作品の生まれた地であり作品の舞台にもなっているプリンスエドワード島への留学は研究の上での絶好の機会でもありました。今回の留学は、将来教育と研究に携わる者として刺激的な体験になりました。



プリンスエドワード島大学

TATF 研修プログラムではアカデミックライティング、プレゼンテーションスキルを強化する訓練に加えて、学生へのフィードバックの方法、クラスの運営方法などの教育について集中的に学びました。この経験は、学部時代日本の大学教育にしか触れてこなかった自分にとって新鮮で、将来につながる有意義な経験でした。

自分の研究に合わせた指導が受けられる留学プログラムにおいてはメンターの教授にマンツーマンでの指導を受け、研究とその発信についての知見をより深めることができました。メンターの教授とは、頻繁にミーティングを行い、自分の研究の興味について話したり、テーマを考えアイデアを生み出す上でのヒントをいただきました。私の研究テーマは『赤毛のアン』の日加の受容比較でしたが、アンのイメージについて語った機会での、日本人から見たアンと北米の人が語るアンのイメージの違いは私にとって興味深いものでした。加えて、学会発表の際の伝わりやすいプレゼンテーションの方法についてもご教授いただきました。以前は学会で原稿を読み上げるだけだった私ですが、パワーポイントや話し方についてのアドバイスを受けて、より聴衆を意識した話し方を心がけられるようになりました。研究において重要な読者、聴衆を意識した研究態度を体得できたと感じています。メンターの教授の専攻は私とは異なる分野だったのですが、その教授からモンゴメリ研究が専門の教授を紹介していただくことができ『赤毛のアン』と作者のモンゴメリについての知識も得ることができました。

今回の留学で現地の教授や学生との交流を通して、博士論文執筆についてや研究者として生きていくビジョンがよりクリアになったと実感しています。今回の留学は研究者、教育者になるために何が必要かを再考するのに非常に良い機会になりました。



キャベンディッシュにあるグリーンゲイブルズ